



十西小だより

弥富市立十四山西部小学校
学校だより 第15号



令和元年6月20日

着衣泳体験



6月18日(火)に、日本赤十字社愛知県支部から講師をお招きし、5・6年生が着衣泳体験を行いました。

はじめに、「着衣泳」といっても「泳ぐ」わけではなく、事故などが起こった場合に助けが来るまで「浮く」ことであり、「命をつなぐ」ことが大切であるということを確認しました。次に、安全な入水の仕方や水中で移動するとき抵抗の少ない体の向きなどを、体験しながら確かめました。また、助けが来るまで「浮く」ための方法を教えていただき、ペットボトルを抱えて1分間「浮く」ことができるかどうか挑戦しました。最後に、着衣のまま好きな泳ぎ方で泳いでみました。子どもたちからは、「無理!」という声が上がりました。

水の中に落ちれば、どうしても泳いで助かろうとしてしまいますが、衣服を着た状態でむやみに泳いでも体力を消耗してしまいます。波や流れのある場所ではなおさらです。また、水の事故は夏に起こるとは限りません。水中で衣服を着ていると泳ぎづらいので脱ぎたくなりますが、水中では脱ぐのが難しいことや衣服が空気を含んで浮きやすくなること、体温を保つ働きがあることも教えていただきました。いざというときが来ないのが一番ですが、「自分の命を自分で守る」ための方法を学ぶことができました。

♡♡♡♡♡ 1秒でできること ♡♡♡♡♡

6月17日(月)の朝礼で、子どもたちに「1秒でできること」には、どんなことがあるか尋ねました。子どもたちは、「まばたきをする」「息をする」など、いろいろ考えて答えてくれました。子どもたちが答えてくれたことは、なるほどと思うことばかりでしたが、私たち人間は、1秒で人を幸せにすることもできることを伝えました。笑顔で「おはようございます」と言ってもらえば、うれしいと感じるし、何かをしてあげて「ありがとう」と言われればよかったなと思います。逆に、「きもい」とか「うざい」と言われると悲しい気持ちになります。1秒で人を不幸せにすることもできるのです。たった1秒ほどの言葉ですが、自分の発した言葉が相手をどのような気持ちにさせるか考えて過ごせるとよいと思います。

